

特定の医療と退院調整に関する調査研究 ～MSW として医療を受ける権利を守りたい～

○遠藤卓馬 江村宏子 佐藤理絵 前嶋真理子 柘植大輔

要旨

急性期病院の医療ソーシャルワーカー（以下 MSW）の多くが退院支援業務において、亜急性期・慢性期の医療機関等に退院調整を行っている。退院調整の中で治療薬や医療処置などの特定の医療を継続して行う必要がある場合に、転院先の医療機関で同じ医療が継続できないことがある。その医療に対応できる転院先が限定されたり、他の方法に切り替えたり、取りやめるなどの“調整”を行う。この“調整”がクライアントの意に沿わない方向になることや、最善あるいは必要な医療の提供の妨げとなりえることを指摘するものである。

1 目的

MSW や退院支援看護師が退院調整を行う際に、特定の医療（薬剤、処置）を必要とする患者の転院先の選択肢が限定されたり、その治療を中止または変更するなどの調整が必要になることがある。このような実態の把握と問題点を明らかにすることを目的とする。

2 方法

令和 4 年 11 月から 12 月の間に A 市近郊の急性期病院（4 病院）の退院支援担当者を対象にアンケート調査を行った。アンケートの結果を集計、分析し考察を行った。

倫理的配慮；本研究は、富士市立中央病院倫理委員会の承認（2022 年 受付番号 2 8 7）を得て実施した。

3 結果

4 病院すべて以下の調整困難を経験していた。

- ①調整困難を経験した医療は、薬価の高い薬、麻薬、抗がん剤、中心静脈栄養、輸血など 22 種が挙げられた。
- ②転院先で受け入れ困難になる理由は、薬価が高いため利益が減ること、採用薬でない、医療処置を行える体制がないなどが挙げられた。
- ③どのように調整したかについては、薬剤を中止・変更した、施設を変更した、退院処方を多く出すなどが挙げられた。
- ④患者からの反応は、医療の中止・変更による病状の変化に対する不安や、治療継続できないことに対する不満などが挙げられた。
- ⑤調査対象者の 75%が、この問題について、大変

困難に感じると回答した。

4 考察

調査によって得られたことを基に、高額薬の一つである利尿薬トルバプタンをめぐる調整についてまとめた。薬価が理由で受け入れ困難となることがわかった。退院をすすめるために処方を中止、他の薬に変更、用量を減らす、退院処方を多く出す、一時中止する、治療継続できる施設に調整するなどの方法で対応していた。治療効果の高い薬剤をとりやめることへの患者・家族の不納得感と医療者の落胆がある。

この問題により、①最適な医療が継続できない可能性があることや、②最適な退院先に移行できない可能性があることと、③この問題の回避が患者の犠牲、医療機関・施設の努力・犠牲の上に成り立っているケースが存在することが示唆された。

5 まとめ

今回の調査により、退院後に特定の医療が継続できない状況が明らかになった。特に薬価の問題については診療報酬の仕組みが原因で起こっている、つまりマクロ的な不具合と考えることができる。これを患者（ミクロ）と各医療機関（メゾ）の努力や工夫、犠牲により回避している姿が見て取れた。

地域で安定した療養ができるためには、必要な治療は継続されるべきと考える。よりよい地域包括ケアシステムを推進するためには、ミクロ・メゾの領域での調整努力はもとより、マクロ的な改善も必要である。